かなだ

第96号
金田町報
発行所　金田町中央公民館
編集兼発行人　原田豊茂
印刷所　九州機関紙印刷所
電話　㊸ 4461

金田町人の動き

人口	8,961
男	4,936
女	4,025
世帯数	2,491
転入	108
転出	87
出産	25
死亡	54

交通事故非常事態宣言

田川警察署長

例年交通事故が頻発する年末を控え、田川警察署としては日夜交通事故の犠牲者を一人でも少なくという願いをこめて、各分野で努力を続けておりますが、依然として交通事故は増加の傾向にあり十一月九日現在で総発生件数六八〇件（昨年比＋七一件）死者一三名（昨年比±〇名）傷者八三三名（昨年比＋一五三名）で死者数は抑制されていますが、この儘推移すれば、昨年同様死亡事故減少の目的を達成するのが困難な事態に立ち至ったので、今度一人の死亡者も出さないという交通事故非常事態宣言をし、今年も死亡事故昨年比二名減の業績を樹立しようではありませんか。この際地域住民の一人ひとりが交通安全に関する認識を深めてもらい立派な社会人になってもらうことが交通事故防止の大きな要因になるものとして大きな期待をかけているのであります。

自動車を運転する人は単に早く、快適に自動車を走らせればそれで良いというものではありません。速く快適の前に安全という言葉が入ってはじめて運転者としての資格があるといえるのであります。速く、快適に走る前に、いかに安全に走れるかを前提にしない運転が文明の利器を兇器にかえるのであります。毎日の新聞報道をみても、いかにこの安全な運転を前提としない人が多いかがうかがわれるのであります。年末にかけての事故の多い時期に自分の運転態度あるいは心構えを謙虚に反省して、改めるところは改め、足りないところを補ってもらいたいのであります。

歩行者や自転者に乗る人は歩行者だから、自転車だからという安易な気持から法律を無視している人があるように思いままが、歩行者には歩行者としてのルールがあり、自転者は道路交通法上軽車輛として扱われるので、運転のルールが定められております。自動車と自転者、歩行者が定められたルールをきちんと守っておれば、交通事故が起るはずはありません。

自分勝手な判断と方法で行動するから交通の秩序を乱し、事故の原因を作っているのであります。交通ひんぱんな道路で安否の判断もできない幼い子供を一人で歩かせたり、やっと自転車に乗れるようになった児童が、ふらふらしながら運転している姿、あるいは目も耳も身体も不自由な老人が、一人で道路を歩いている姿など、危険な状態を常に目にしますが、これらは進んで交通事故の犠牲に追いやるようなもので、これこそ運転者泣かせです。

家庭で十分な監視、監護教育及びしつけが何よりも大切です。十分な安全教育や、しつけをしなかった老人や子供さんが、交通事故で命をおとすようなことがあったとしたら、命を失った悔よりも、教育やしつけをしなかった保護者としての悔の方が、より大きいのではないでしょうか。日毎おろそかにされがちな交通安全教育やしつけを、常時くり返し、徹底的に且つ具体的に行なってもらいたいと思います。新聞に報道される交通事故を引用して、家庭における親と子の話題として、とりあげていただくことも一つの方法かと思います。

これから年末にかけて、各家庭から一人の交通事故の犠牲者も出さないという固い決意で、一日一日を過していただくことを願ってやみません。

金田町少年柔剣道大会開催さる

青少年問題協議会

次の時代を担う青少年を健全に育成することの重要さが強調されている折柄、金田町青少年問題協議会では、本町青少年の身心を鍛え、強く明るく育成する一助にもと、菊薫る十一月三日第六回金田町青少年柔剣道大会を、柔道は金田町中央公民館、剣道は金田中学校で開催致しました。

参加した選手は小学生一三名、中学生四三名、高校生九名、青年三名、計六八名。

若さと健康を誇る若人等は、日頃練磨の腕を見せるのはこの時とばかり、紅白試合に個人試合に熱戦を繰りひろげました。

次の諸君が栄えある賞状賞品を授与されました。

柔道之部

小学生

町長賞　田村利文
議長賞　須藤達男
教育長賞　清水博志

中学一年生

町長賞　中尾
議長賞　万田
教育長賞　浦田

中学二年生

町長賞　早瀬
議長賞　森
教育長賞　石川

中学三年生

町長賞　長尾　均
議長賞　藤川昌孝

中学三年生

町長賞　吉田勝義
議長賞　藤元春海

高校生

町長賞　占部　敏
議長賞　荒牧建巳

剣道之部

小学生

町長賞　山下良治
議長賞　手島孝典
教育長賞　早瀬浩二
四位　丸山和彦

女子

町長賞　柳川敦代
議長賞　於久淳子
教育長賞　市丸和恵

中学一年生

町長賞　岩本　守
議長賞　井戸勝人

中学二年生

町長賞　平島
議長賞　春永
教育長賞　中野
四位　吉川

一般

町長賞　佐竹誠一
議長賞　川崎　弘

金田町史

頒布価格　金 1,000円

御希望の方は中央公民館へ

「明日への希望国民年金」

住民課

いよいよ昭和四十六年四月一日より拠出（給付）が始まります国民年金の給付は通常保険料納付済期間と免除期間とを合算した期間が二十五年である者が六十五才に達したときに、その者に支給するとなっております、しかし次の表の上欄に該当する生年月日の者は保険料納付済期間と免除期間との合算期間が次の表や下欄の期間を満たしておれば六十五才よりその者に老令年金が支給されます。拠出年金制度が発足した昭和三十六年四月一日より被保険者となった者については何等問題がありませんが、途中で資格を取得した者については受給権を得るための期間（納付済期間及び免除期間）が足らない場合があります。今一度御自分の国民年金手帳を確認し、次の表と照し合せては如何ですか、僅かな期間が満たされていないために、今迄納付した保険料が老令年金としてもらえなくなっては大変です。そのような者のために過去の未納分についても納付出来る措置が講じられております。疑問の点あるいは詳細については、遠慮なく役場年金係に問い合せて下さい。

大正五年四月一日以前に生まれた者	（四十五才をこえる者）	十年
大正五年四月二日から大正六年四月一日までの間に生れた者	（四十四才をこえ四十五才をこえない者）	十一年
大正六年四月二日から大正七年四月一日までの間に生れた者	（四十三才をこえ四十四才をこえない者）	十二年
大正七月四月二日から大正八年四月一日までの間に生れた者	（四十二才をこえ四十三才をこえない者）	十三年
大正八年四月二日から大正九年四月一日までの間に生れた者	（四十一才をこえ四十二才をこえない者）	十四年
大正九年四月二日から大正十年四月一日までの間に生れた者	（四十才をこえ四十一才をこえない者）	十五年
大正十年四月二日から大正十一年四月一日までの間に生れた者	（三十九才をこえ四十才をこえない者）	十六年
大正十一年四月二日から大正十二年四月一日までの間に生れた者	（三十八才をこえ三十九才をこえない者）	十七年
大正十二年四月二日から大正十三年四月一日までの間に生れた者	（三十七才をこえ三十八才をこえない者）	十八年
大正十三年四月二日から大正十四年四月一日までの間に生れた者	（三十六才をこえ三十七才をこえない者）	十九年
大正十四年四月二日から大正十五年四月一日までの間に生れた者	（三十五才をこえ三十六才をこえない者）	二十年
大正十五年四月二日から昭和二年四月一日までの間に生れた者	（三十四才をこえ三十五才をこえない者）	二十一年
昭和二年四月二日から昭和三年四月一日までの間に生れた者	（三十三才をこえ三十四才をこえない者）	二十二年
昭和三年四月二日から昭和四年四月一日までの間に生れた者	（三十二才をこえ三十三才をこえない者）	二十三年
昭和四年四月二日から昭和五年四月一日までの間に生れた者	（三十一才をこえ三十二才をこえない者）	二十四年

〔備考〕この表の中欄の記載は、上欄に掲げる者を昭和三十六年四月一日における その者の年令であらわしたものである。

援護だより

住民課

戦没者等のご遺族、又は戦傷病者等の妻に十万円、五万円、三万円の次の特別給付金、特別弔慰金が支給されています。

一　戦没者の父母等に対する特別給付金の十万円は昭和十二年七月七日以後に死亡された軍人、軍属等の父母又は祖父母で、昭和四十二年四月一日現在、公務扶助料、遺族年金等を受けている者で、戦没者の死亡当時、子や孫があっても、戦没者に氏が遺っていることが第一条件で、第二の条件として、戦没者の死亡後昭和四十四年九月三十日までの間に同じ氏の子も孫も生じなかった場合に支給されます。

二　戦傷病者等の妻に対する特別給付金の五万円は、昭和12年7月7日以降に負傷又は病気になり、昭和38年4月1日現在において傷病年金の1款症2款症又は傷病年金の2款症3款症の年金等の支給を受けている戦傷病者等の妻に支給されるものであります。

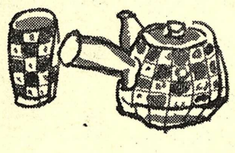
三　戦没者等の遺族に対する特別弔慰金の3万円は、昭和16年12月8日以降に亡くなられた戦没者の遺族で昭和40年4月1日現在、公務扶助料、遺族年金等をもらっていない戦没者の父母、孫、祖父母又は兄弟姉妹で前回の特別弔慰金の受給資格者がなかった場合に限り、昭和44年10月1日生存なされている上順位の次の遺族に支給されます。

(1)戦没者の死亡当時、戦没者と生計関係がなかった者

(2)戦没者の死亡後、遺族以外の者の養子となっている者

(3)戦没者の死亡後、遺族以外の者と氏を改めた婚姻をした者

以上の特別給付金又は特別弔慰金が法律の一部改正により、昭和44年10月1日から支給されておりますので、時効（昭和47年9月30日）までに請求しないと受給できなくなりますから、金田町役場福祉係に早めに相談のうえ之請求して下さい。



老令年金支給額の訂正

金田町報第九五号（一一月一日発行）の高令者の任意加入再開の記事の中で老令年金（年金額は三千円）とあるのを老令年金（年金額は三万円）誤りでしたので訂正致します。

（町報編集係）

嫁姑関係（1）

金田町青少年問題協議会

子どもが良い子に育つためには、その子のもって生まれた素質も大事ですが、それとともにその子の育っている家庭環境がどうあるかということ、特に家庭内の人間関係がどうあるかということは大変大事なことです。子どものために立派な家を建て、立派な調度品をあつらえ、遊びや勉強のための設備を完備するということは、なかなかできることではありませんが、それ以上に大事な意味を持つ家庭内の人間関係を整えるということは、親の心掛け次第では、完全に、しかも容易にできることです。

人間関係のうちで最も大切なのは夫婦の人間関係ですが、それにつぐのは嫁姑の人間関係でしょう。もっとも今は昔と違って若い人達からは、お姑さんは「家つき、カーつき、ババぬき」などといって、結婚の時から敬遠されたり、また生活事情の変化のために、お姑さんの同居されている家庭は、現在は非常に少くなっています。しかしそれでも統計でみますと二二パーセントはお姑さんのいる家庭となっていますし、また同居はしていなくとも、お姑さんのいる家庭を調べたら、もっと多くなりますと姑との関係がどうあるかということは、時代は変ってもやはり多くの人達によって子どものために真剣に考えられなければならない問題だと思います。

嫁姑衝突の原因

嫁と姑との関係は、昔からなかなかうまくいかない人間関係の代表的なものとされ、それがうまくいこうものなら、美談として近郷に宣伝されるという状態にありますが、嫁姑関係というものはそのようにむづかしい関係のものでしょか、昔からいわれている以上は、何か二人の関係を悪くさせてしまうようなものが、自然に発生してくるのかもしれませんが、もしそのようなものがあるとしたらそれは具体的にはどのようなものなのでしょうか。

子どもを交通事故から守りましょう

中央公民館

交通事故による死亡やけがは、幼児のひとり歩きと小学生の自転車のりが一番あぶないのです。三〜四才の幼児は、ちょっとのすきに一人歩きをする心配があります。

保護者は、かたときも、油断できません。手をひいて歩くときにも、子どもを車からよけるような心づかいをして下さい。

子どもの交通事故を調べると、その三分の二は不注意のためだそうです。

それも、ほんのちょっとした不注意が多いのです。事故をいちばんよく起す車は、トラックが第一、つぎはモーターつき自転車、タクシーなどの乗用車、オート三輪、オートバイなどの順です。

幼児の交通事故がおこりやすい時間は、母親が炊事の用意などでいそがしい昼前や夕方の時刻です。

学童のばあいは、学校の行き帰りや、遊びに熱中している時に多いのです。広い道路や、小さな道や、交差点などの事故死は、わりに少なくて、中ぐらいの道路でおこる事故がいちばん多いということです。道路は、走る車や、駐車している車に、ほとんど占領されていますが、もっと、歩く人の安全のためを考えて道路に車や邪魔ものを置かないように、また歩道をもっとつくるように、みんなが努力したいものです。しかし、歩行者の不注意による事故――とくに子どもの場合に多いということ。――については大人も子どももよく反省してみんなが交通安全を身につけなければなりません。

もう一つ大切なことは、子どもの運動機能、反射機能をよく訓練することです。

知っていて損はない

どんな場合に夫婦は離婚の申立てができるか……

住民課

離婚は夫婦の生存中における当事者の意思に基づく婚姻の解消である。

そもそも婚姻は男女の終生の共同生活を目的とする結合であるから、これをその中途において解消することは婚姻の本質に反することといわなければならない。しかし事実上どうしても維持できない婚姻関係を、法律上維持して当事者を拘束してみても、害あって益がない。そこで夫婦はその協議合意のうえで離婚することができる。

従来古くから、もっぱら夫側の一方意思による単意離婚、すなわち「追い出し離婚」が相当見られた。妻は別れる気がなくとも、夫だけの意思で決定されたが、現在の法律では妻は離婚によって必ずしも子を取り上げられずにすむようになった。

離婚後の両当事者の生活を考えて財産分与請求権を認め、また両者の間の子の監護教育についての配慮をほどこし、男女同権、平等の主張を認められている。

左の場合に限り離婚の訴を提起することができる。

一、夫か妻が不貞な行為があったとき。

一、夫か妻が悪意で遺棄されたとき。

一、夫か妻が三年以上生死が明らかでないとき。

一、夫か妻が回復の見込みのない強度の精神病（一時的または軽い精神病は離婚原因にならい）

一、その他婚姻を継続しがたい重大な事由があるとき。

以上

電気用品の安全な使いかた

中央公民館

わたしたちは、毎日いろいろな電気器具を使っています。電気用品を安全に使うためつぎのことに注意しましょう。

まず、屋内配線やスイッチに、じゅうぶんな余裕があるかどうかを点検してください。コンセントに電気用品を接続して使うとき、配線やスイッチに電流が流れすぎて過熱し、漏電や火災の原因となることがあります。屋内配線の太さやスイッチの定格電流を調べて小さければ大きいものと取り換えましょう。

つぎに、電気せんたく機や電気脱水機などのように水気のある場所で使うものは、必ずアースをつけましょう。

電気用品を扱う場合の注意は、つぎのとおりです。

・せんたく機などやむを得ないものは別として、ぬれた手でさわらないこと

・使用中停電したときは必ずスイッチを切ること

・電熱器具は、燃えやすいものを近くに置いて使ったり、本来の用途以外のことに使ったりしないこと。

・コードは発熱部や器具に接触しないように離して使い、使用後は、コードが冷えないうちに巻き付けたりしないこと。

・説明書の使用注意をよく読んで使用し、説明書は保存して、いつでも見ることができるようにしておくこと。

第六回健康教育研究発表会の開催

教育委員会

金田小学校では、昭和二十五年から健康教育の研究を続けて、現在に至っておりますことは、町民の皆さんも御承知のかたが、多いかと思いますが、

去る、十月三十日（木）第六回目の健康教育研究発表会を開催して、その結果を発表しました。

「保健、安全、給食、体育の四領域を包含する本校の健康教育を、どう進めていくか」という問題を研究主題として、午前中は、

全学級の公開授業や、給食指導の実際、その他

午後は

参観者が四分科会に分かれ、金田小学校の先生による研究発表を中心にした研究協議会のあと、全体会に移り、講師には日本学校保健会理事長、医学博士、湯浅謹而先生を東京からお招きして「健康教育の問題点とその解決」という演題で、約一時間半の講演がおこなわれました。

当日の日程は次のとおりでした。

八・〇〇～八・二〇　分団登校の様子
八・二〇～八・三五　朝の掃除
八・三五～八・五〇　健康観察と朝の会（学級毎に）
九・〇〇～一〇・四〇　公開授業
○保健学習の公開（六学級）
○安全学習の公開（六学級）
○体育学習の公開（九学級）
一一・〇〇～一一・四五　学校給食指導の公開（全学級）
一一・四五～一二・三〇　中食と校内参観
一二・三〇～一四・〇〇　分科会
○第一分科会…保健教育
○第二分科会…安全教育
○第三分科会…体育
○第四分科会…学校給食
一四・一五～一六・三〇　全体会
○校長挨拶
○小野教頭の発表
○井上教務主任の分科会報道
○講演
講師…日本学校保健会理事長、医博　湯浅謹而先生
演題「健康教育の問題点とその解決」
○島津教育長挨拶

当日は秋晴れの好天気に恵まれ、福岡県教育庁学校保健課長をはじめ、郡内、県内、県外からの各小学校の先生、教育関係者、PTA、その他学校関係者、約四百名にちかい参観者があり、金田小学校の健康教育に関する今日までの研究と実践の成果を充分に発揮し、会員にも大きな感銘をあたえ、盛会裡に研究発表会を終了しました。

なお金田小学校PTAの皆さんたちが、多数当日は学校に出られて、研究発表会に協力されましたことを報告いたしますとともに、御礼を申しあげます。

講演「健康教育の問題点とその解決」要旨

講師　日本学校保健会理事長　医学博士　湯浅謹而

健康とは

医学教育と健康教育はちがう。医学教育を受けたものも、健康な生活をしたとは言えない。

健康とは、健康なからだのみをさすものではない。からだ・心・環境・生活を含むものである。基本的には、生命の存否、人間の活動全体をさすものである。児童、生徒が学校を卒業してから、社会で活動できるか、どうかも健康のきめてになる。言いかえると、その人の誕生から死亡までを通して評価されるものであり、それの微分が一日の生活であり、積分が一生涯である。

したがって健康指導は生活全体を通しておこなわれなければならない。もっというならば、起きているときも寝ているときも健康を考える必要がある。このように考えれば学校も生活の一部であり、健康は、家庭生活、学校生活、環境生活で考えなければならない。

健康教育とは

学校保健の組織活動こそ健康教育であると言える。学校では子どもたちの、自主性を育てながら生活を再組織し、再編成することができる。健康のにないてである本人は、自己の健康について完全な理解をもつことが困難であるから、他から具体的にそれを教えてやることも必要である。

学校における健康指導に、健康管理と健康教育がある。健康管理は在学期間中だけで終わるのに対して、健康教育は、少年期に体得させたことがらが、蓄積作用によって強化され、その人の一生涯の間自律的に作用するという意味で重要となるのである。

健康教育の問題点

健康教育は児童生徒自身の問題であるから、自分で問題を発見し、自分で解決させるよう指導することが基本である。また初等教育においては、健康にふさわしい習慣を形成させることが必要であり、家庭でできた習慣が正しくないとき、これを矯正することも大切である。

健康という場合には、子供の活動全体をさすものであるから、からだの健康だけでなく、心の健康に対する配慮がきわめて大切である。この面の取扱いや配慮は、どこでも不足であるが金田小学校では、音楽、図工、環境整備など情操教育を取り入れた健康教育がおこなわれており、極めて適切であると思った。

また健康教育は学校のカリキュラムにある毎週一回とか、毎月一回とかの指導時間だけで終るものであってはならない。学校生活のあらゆる場面で、また家庭生活で健康を配慮し、能率的な学習活動がすすめられるよう、合理的な指導をしてやらねばならない。一般に病気や怪我には敏感な教師、保護者も、慢性的なもの、環境的なものに対しては、感受性が鈍くなっていることが多いので、留意してほしい。

健康は金で買えるものではない。金持や指導者や管理者に短命のものが多いのはその証拠である。また、人間尊重の教育を受けた人に生命尊重の気持がなく、不健康な人が多いのはなぜか。それは今までの教育の中に健康教育がなかったからである。

多くの学校が健康教育をとり入れて、本当の民主教育、生命尊重の教育を実践されるよう望んでやまないものである。

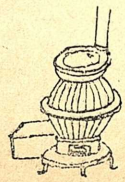
御芳志ありがとうございました

金田町社会福祉協議会

鶴美会殿

秋祭の際の踊に対する御祝儀を

植高芳己殿

御子息信男様香典返分として

それぞれ御寄附をいただきました。もっとも有意義に使用させていただきたいと思います。